
プログラム

基調講演 1

7月1日(土) 9:45~10:45 講演会場

不適切養育環境で育つ子どものこころの理解

座長 毎原 敏郎(兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科)

演者 星野 崇啓(さいたま子どものこころクリニック)

基調講演 2

7月2日(日) 9:00~10:00 講演会場

虐待をしてしまう親のこころの理解

座長 柴田真理子(兵庫県立尼崎総合医療センター 精神科)

演者 亀岡 智美(兵庫県こころのケアセンター)

教育講演 1

7月1日(土) 11:00~12:00 講演会場

切れ目のない支援の実現に向けて ~すべての子どもの権利保障~

座長 大岡 由佳(武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科)

演者 藤林 武史(西日本こども研修センターあかし)

教育講演 2

7月2日(日) 13:15~14:15 講演会場

発達障害のある子の心の育ちと育みの支え ~トラウマとレジリエンスの視点から~

座長 渡邊健太郎(兵庫県立尼崎総合医療センター 小児外科)

演者 岡田 俊(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部)

シンポジウム 1

7月1日(土) 13:30~15:00 講演会場

急性期医療における支援

座長 竹田 洋樹(神戸徳洲会病院 小児科)
上月 明子(神戸市こども家庭センター)

救急隊員ができる支援の可能性

福澤 将典(尼崎市消防局 救急課)

CPTのない病院での子ども虐待への対応の実際(一小児科医のホンネと建前を添えて)

川崎 英史(市立岸和田市民病院 小児科)

1~3次小児救急医療を担う High volume centerとしての虐待支援

山上 雄司(兵庫県立尼崎総合医療センター 小児救急集中治療科)

初療室でのCPT活動について

大西 茜(兵庫県立尼崎総合医療センター 看護部)

シンポジウム 2

7月1日(土) 15:15~16:45 講演会場

DVへの対応に学ぶ

座長 福岡ともみ(NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうご)
主田 英之(徳島大学大学院医歯薬学研究部 法医学分野)

DV加害者プログラムは被害者支援たりうるか

高井由起子(関西学院大学 教育学部)

DV・虐待被害者の語りから知る家庭内で起こっていること ~ジェンダーとトラウマの視点~

竹之下雅代(ウィメンズカウンセリング京都)

DV家庭にいる子どもへの支援について ~弁護士からみた現状

徳山 育弘(ハートリーフ法律事務所)

DV家庭に対する子ども福祉実践の新たな視点:強圧的コントロールと Safe & Together モデル

増井香名子(日本福祉大学 社会福祉学部)

シンポジウム 3

7月2日(日) 10:15~11:45 講演会場

多機関からの支援

座長 浅井 鈴子(武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科)
 仙田 昌義(総合病院 国保旭中央病院 小児科)

警察の児童虐待対応及び再発防止対策

大村 浩司(兵庫県警察本部 生活安全部少年課)

検察としての支援

赤塚 里美(神戸地方検察庁 公判部)

児童相談所としての支援

寺島 直希(兵庫県川西こども家庭センター 家庭支援課)

親にもケアを MY TREEペアレンツプログラムを実施して

中村 由貴(社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会 安心サポート部子ども・家庭支援グループ)

シンポジウム 4

7月2日(日) 14:30~16:00 講演会場

動物からの支援

座長 上村 克徳(兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科)
 田上 幸治(神奈川県立こども医療センター 総合診療科)

共催：公益社団法人日本動物病院協会／

特例認定NPO法人子ども支援センターつなぐ／

認定NPO法人日本レスキュー協会

動物が子どもに与える力

飛田 桂(飛田桂法律事務所、特例認定NPO法人子ども支援センターつなぐ)

人だけでなく、犬も癒されている？ 犬介在活動の相互作用と活動の種類

吉田 尚子(公益社団法人日本動物病院協会)

闘病中の子どもと家族を支える、安心・安全なセラピードッグの存在

赤木亜規子(認定NPO法人日本レスキュー協会 セラピードッグ事業)

児童養護施設児童へのドッグズプログラム

海野千畝子(兵庫教育大学 人間発達教育専攻)

一般演題

ポスターセッション1

7月1日(土) 12:30~13:15 ポスター会場

A. 大会長要望演題

- 1-1 不慮の事故に対する事故予防観点からの支援 ～看護外来での取り組み～
川村 桃子(兵庫県立尼崎総合医療センター 看護部)
- 1-2 虐待対応に関わる医療従事者への歯科法医学からの支援
岩原 香織(日本歯科大学 生命歯学部歯科法医学講座)
- 1-3 虐待ケースへの心理支援：アートサイコセラピー
森 香保里(国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター 臨床研究部)
- 1-4 不適切な養育環境にある重症心身障害児に対する多機関連携支援の課題
増井 洋子(磐田市立総合病院 看護部)
- 1-5 医療保護入院に近い対応での支援を障害者施設でおこなった1例
平野 翔堂(社会医療法人大道会ボバース記念病院 小児神経科)

B. ER・CPTから地域連携

- 1-6 ERにおける養育支援に対する情報収集の現状
瀧田 玲子(総合病院土浦協同病院 看護部)
- 1-7 初療からの子どもと家族の支援 ～「気にして診て」シートの作成と看護師の行動変容～
喜多 正美(兵庫県立尼崎総合医療センター 看護部 初療)
- 1-8 静岡県内の病院の児童虐待対応のニーズの検討 ～初年度の取り組み～
城戸 貴史(静岡県立こども病院 育児環境支援室)
- 1-9 秋田県の虐待対応レベルアップのために医療ができること
米山 法子(地方独立行政法人市立秋田総合病院 小児科, 秋田県医師会 虐待予防小委員会)
- 1-10 A病院の児童虐待予防に関する地域連携の実態調査
三宅 壽美(日本社会事業大学大学院 社会福祉学研究科博士前期課程 2021年度修了生)

C. 症例1(熱傷、性虐待)

- 1-11 熱傷の形態から身体的虐待の可能性を見積もる戦略 ～臨床法医学的支援をうけた症例～
亀井 優(東京医科大学病院 小児科・思春期科学分野)
- 1-12 詳細な状況調査の重要性が改めて示唆された熱傷の一例
内ヶ崎西作(東京医科大学 基礎社会医学系 法医学分野)
- 1-13 早期からの多機関連携により受傷機転が明らかになった乳児熱傷の1例
肥田 浩佳(茨城県立こども病院 小児総合診療科)
- 1-14 性器ヘルペスに罹患した児の虐待診断から支援体制構築の難しさ
鷺坂 誠宏(東京医科大学病院 産科婦人科学分野)
- 1-15 医療が必要な要保護児童へのライフステージにおける支援 ～要保護児童から特定妊婦へ～
橋倉 尚美(社会医療法人愛仁会高槻病院 看護部)

ポスターセッション2

7月2日(日) 12:15~13:00 ポスター会場

A. 院内連携・CPTから地域連携

- 2-1 当院における「気がかりシート」を用いた虐待スクリーニングの検討
熱田 恵美(兵庫医科大学病院 看護部)
- 2-2 事故やケガでの受診をきっかけに地域の子育て支援のネットワークにつなげる
石倉亜矢子(函館中央病院 小児科, 函館中央病院 総合医療支援センター こども子育て支援室)
- 2-3 当院におけるFAST(家族支援チーム)の取り組み ~予防の重要性と行政との連携課題~
曾我比呂子(公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院 医療福祉相談室)
- 2-4 院内CPTの正式発足前後で比較した対応症例の検討について
美野 陽一(鳥取大学医学部附属病院)
- 2-5 洛和会音羽病院におけるCPTの立ち上げと、1年間の活動報告
宇留野 圭(洛和会音羽 小児科)

B. 症例2(骨折、TIC)

- 2-6 多発骨折で虐待に気付かれた乳児後期女児の1例
石川 順一(大阪市立総合医療センター 小児救命救急センター)
- 2-7 骨系統疾患の疑いで経過観察中に同胞への身体的虐待が判明した1例
佐々木博正(石川県立中央病院)
- 2-8 出生時に頭蓋骨多発性骨折を認めていたMenkes病
林 辰司(神奈川県立こども医療センター 新生児科)
- 2-9 虐待が疑われた親への支援
鳥尾 倫子(福岡市立こども病院 総合診療科)
- 2-10 トラウマインフォームドケア:TICにより母子の逆境的小児期体験が明らかになった一例
大矢 崇志(飯塚病院 小児科)

C. 研究

- 2-11 ダミー人形実験で作成した落下高・衝撃力間グラフを適用した乳児頭蓋骨骨折実症例分析
田代 弦(静岡県立こども病院 育児環境支援室)
- 2-12 小児の日常動作中の転倒における頭部の運動分析
井関 博文(徳島大学大学院 法医学分野, 中洲八木病院)
- 2-13 1歳以下の頭蓋骨骨折の治療過程の検討 —受傷時期推測の支援—
横井 広道(国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター 育児支援対策室)
- 2-14 血液による骨折スクリーニング検査を目標とした骨形成評価法の検討
鎌倉 尚史(神奈川県立歯科大学 法医学講座歯科法医学)